
中村 茜 Akane Nakamura

パフォーミングアーツ・プロデューサー



1979年東京生まれ。日本大学芸術学部在籍中より舞台芸術に関わる。2004年～2008年STスポット横浜プログラムディレクターを経て、2006年株式会社precogの立ち上げに参画、08年より同社代表取締役。16～18年アジア・カルチュラル・カウンシル（ACC）のグランティとしてバンコクとニューヨークに滞在。現代演劇、コンテンポラリーダンスのアーティストやカンパニーの国内外の活動をプロデュースするとともに、サイトスペシフィックなフェスティバルや領域横断的な人材育成事業、動画作品をバリアフリーと多言語で配信するプラットフォーム事業などを手掛ける。

主な活動実績

2004年よりチェルフィッチュ・岡田利規、ニブロールおよびミクニヤナイハラプロジェクト・矢内原美邦、吾妻橋ダンスクロッシング、康本雅子、飴屋法水、神里雄大、篠田千明、など日本の現代演劇、コンテンポラリーダンスを牽引するアーティスト・カンパニーの、国内外の活動をプロデュース。海外ツアーや共同製作のプロデュース実績は30カ国70都市に及び、2000年代後半より日本現代演劇シーンの国際展開を大いに促進させてきた。

2009年10月、金森香（一般社団法人DRIFTERS INTERNATIONAL代表理事）、藤原徹平（建築家）と共に[NPO法人ドリフターズ・インターナショナル](#)を設立。舞台、ファッション、建築などの領域を横断し、国際的なプログラムの企画制作やインクルーシブな視点でのプロジェクトなどに取り組み、更にその活動の幅を広げている。

令和3年度（第72回）文化庁芸術選奨・文部科学大臣賞新人賞【芸術振興部門】受賞。

- 2011年:世界の小劇場 ベルリン編(NPO法人ドリフターズ・インターナショナル主催・ベルリンHAU劇場との共同キュレーション)プロデュース
- 2012~2014年 国東半島アートプロジェクト及び国東半島芸術祭(国東半島芸術祭実行委員会主催) パフォーミングアーツプログラム・ディレクター
- 2012年、2014年: 飴屋法水×朝吹真理子「いりくちでくち」(国東半島芸術祭実行委員会主催)プロデュース
- 2012年: Musicity Tokyo(ブリティッシュ・カウンシル主催)ディレクター
- 2012年: KAFE9(NPO法人ドリフターズ・インターナショナル・KAAT 神奈川芸術劇場主催)プロデュース
- 2016年~2019年: 岡田利規×ウティット・ヘーマムーン×塚原悠也「[プラーターナー: 憑依のポートレート](#)」(国際交流基金アジアセンター、株式会社precog共同主催)プロデュース
※2020年読売演劇大賞ノミネート
- 2016年: 瀬戸内国際芸術祭2016 犬島パフォーミングアーツプログラム内橋和久犬島サウンドプロジェクト「Inuto Imago」(公益財団法人福武財団、株式会社precog共同主催)プロデュース
- 2019年: [True Colors Festival ~超ダイバーシティ芸術祭~](#)(日本財団主催)アソシエイトディレクター兼副事務局長
- 2018~2020年 [Jejak- 旅 Tabi Exchange: Wandering Asian Contemporary Performance](#) キュレーション、プロデュース
- 2020年: バリアフリー動画配信サービス「[THEATRE for ALL](#)」プロデュース
※2021年3月サービス開始
- 2021年: 森美術館の展覧会関連プログラム「[Meet the Artists](#)」山本高之「[イクトウス](#)」、まちと美術館のプログラム 辻本知彦×菅原小春「[アート・キャンプ for under 22 Vol. 7 ヒューマン・ビギン: アシタナニスル?](#)」プロデュース

国内外のネットワークづくり

2007年以降、チェルフィッチュの活動で欧米を中心に国際ツアーを多数プロデュース。そのネットワークは、世界30カ国70都市以上に及ぶ。2016~18年の2年間、アジアン・カルチュラル・カウンシルのグラントを受けたことをきっかけにバンコクに拠点を

移し、アジアの舞台芸術についてリサーチ。2018～2021年にわたって開催した [Jejak- 旅 Tabi Exchange: Wandering Asian Contemporary Performance](#) など、日本とアジアを結んだプロジェクトにも注力している。アーティスト・芸術団体と観客の間を繋ぐ仕事に携わる人たちの全国的・国際的な会員制ネットワーク「[舞台制作者オープンネットワークON-PAM](#)」発起人兼理事。

アクセシビリティ事業

2019年日本財団主催の「[超ダイバーシティ芸術祭 True Colors Festival](#)」への参画を機に「アクセシビリティ」「インクルージョン」が活動のテーマに加わる。この芸術祭の公式プログラム「[ママリアン・ダイビング・リフレックス／ダレン・オドネル『私がこれまでに体験したセックスのすべて』](#)」は、カナダのアーティスト集団の参加型プロジェクト初制作・上演（日本オリジナル版）であるとともに、様々な鑑賞サポートと多様なバックグラウンドを持つ人々の関わりを創出した公演となった。2020年10月に自社事業として、演劇・ダンス・映画・メディア芸術などさまざまな作品動画をバリアフリーと多言語で鑑賞できるオンライン型の劇場「[THEATRE for ALL](#)」をプロデュース。障害を持つ人の芸術へのアクセシビリティ向上とアーティストのアクセシビリティへの理解や新たな視点での表現の探求を可能にする取り組みとして評価され、2021年度のGOOD DESIGN賞を受賞。

人材育成事業

2010～2013年ドリフターズ・サマースクールを横浜を拠点に開催し、制作、ダンス、建築、ファッションと横断的な表現領域における人材育成プログラムをプロデュース。2011～15年まで母校・日本大学芸術学部にて非常勤講師をつとめた。2019年より3年間にわたってワークショップデザイナー臼井隆志氏とともに、観劇を教育的体験に応用するための鑑賞プログラム「[コネリング・スタディー](#)」を開発・検証。2020年には渋谷スクランブルスクエア15階の会員施設・SHIBUYA QWSにて、クリエイターやビジネスパーソン、アーティストなどとの領域横断的なプロジェクトを企画・立案・発信するためのスクール「Re／Creation」の共同ディレクターをつとめる。2021年「THEATRE for ALL」の教育普及事業「THEATER for ALLラーニング」を始動、手話通訳や文字

支援などのあるインクルーシブなワークショップの開発に従事し、表現系や対話型のワークショップを行うとともに、ワークショップデザイナーやファシリテーターの育成プログラムも展開。「正解のない問いをめぐって、さまざまな人が安心して対話・創作に参加できる場をつくる技術」を持つ、ワークショップ運営の担い手を増やすべく活動している。

地域活性事業

2012年に東京都との協働で、隅田川を舞台に100名のチアリーダー等を迎えた「[すみだがわパレード](#)」を開催。また、2012年～14年まで大分県・国東市・豊後高田市共同主催の「国東半島芸術祭」でパフォーマンスプログラム・ディレクターを務め、飴屋法水×朝吹真理子の代表作となった12時間のバスツアー作品『[いりくちでくち](#)』等をプロデュース。2016年「瀬戸内芸術祭2016」では内橋和久とインドネシアの音楽ユニットSenyawaとの共同企画で、島に一ヶ月の仮設ライブハウスをオープンし、アジアのさまざまな音楽家とのセッションやワークショップを繰り広げる「[犬島サウンドプロジェクト Inuto Imago](#)」をプロデュースするなど、地域に根ざした活動にも精力的に取り組んでいる。

スペース運営事業

2010年～13年に無人島プロダクションと吾妻橋ダンスクロッシングとの共同プロデュースで東京の下町での新たな価値を生み出す社交場「SNAC」を開設。2012年5月に大分県別府市にクリエイティブスペース「[PUNTO PRECOG](#)」を開設、新規事業が生まれる発信地として提供している。また、東京・新宿区山吹町の印刷工場跡地にフリースペース「[山吹ファクトリー](#)」を開設、演劇やダンスの公演・リハーサルスタジオとして提供するとともに、ワークショップ企画などを行なっている。

関連ウェブサイト

株式会社precog <http://precog-jp.net>

THEATRE for ALL <https://theatreforall.net/>

山吹ファクトリー <https://www.yamabukifactory.tokyo/>

一般社団法人ドリフターズ・インターナショナル <http://drifters-intl.org/>

ON-PAM(舞台制作者オープンネットワーク) <http://www.onpam.net/>

登壇、メディア関連実績

登壇

- 2023年9月9日: [サイノツノ・アーティスト・イン・レジデンス 短期研修プログラム「表現/社会/わたしをめぐる冒険」セッション②「アート・福祉・インクルーシブの現在」](#)
- 2023年2月6日: [舞台制作者を知るオンライントーク『私がこの仕事を選んだ理由』 | コンテンポラリーダンス 新進振付家育成事業2022](#)
- 2023年1月27日: [【EPAD×THEATRE for ALL】オンライントーク「舞台芸術やダンスのバリアフリーを実現するために必要なこと」](#)
- 2022年10月28日: [Tokyo Art Research Lab \(TARL\)「応答するアートプロジェクト | ケーススタディ・ファイル」\(公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京\)](#)
- 2022年10月27日: [国際シンポジウム「不確実な時代の国際文化交流: 日・独・英の現場から」パネルディスカッション「国際文化交流の新たな地平」\(国際交流基金\)](#)
- 2022年10月16日: [東京芸術祭ファーム「Asian Performing Arts Camp 公開セッション」\(東京芸術祭\)](#)
- 2022年9月10日: [NMAO トーク・マラソン2022「precogから始まったプロデュースの行方」\(国立国際美術館\)](#)
- 2022年8月1日 登壇: [年次シンポジウム2022『ポストコロナにおける日本の舞台芸術の国際発信のあり方とは』\(緊急事態舞台芸術ネットワーク\)](#)
- 2022年3月9日 登壇: [アートマネジメントオンラインセミナー「きく・みる・知るから始める！オンラインコンテンツの『可能性』と『作法』」\(おかやま文化芸術アソシエイツ\)](#)
- 2022年2月2日 登壇: [Curating Around Islands: Curatorial Development Program 2022\(国際交流基金マニラ\)](#)

- 2021年10月 登壇: 芸術総合講座(上演系)「ジャンルを超えた国際アートプロジェクトのプロデュース」(日本大学芸術学部)
- 2021年9月19日 登壇: [『あたらしい憲法のはなし3』シンポジウム第二部「演劇界からのまなざし」](#)(文化庁・多摩美術大学主催)
- 2020年6月26日 登壇: [ACCカルチュラル・カンパセーションズ ～シリーズ: ニューノーマルにおけるアートを考える～「第一回: コロナ禍と演劇 岩城京子 × 中村 茜 × 山本卓卓」](#)(アジアン・カルチュラル・カウンスル(ACC))
- 2016年3月20日 登壇: [ON-PAM シンポジウム「劇団・カンパニーの未来像と支援制度vol.1」](#)(舞台芸術制作者オープンネットワーク(ON-PAM))
- 2015年11月2日 登壇: [テクノロジーと身体性から考える未来の手触り](#)(TOKYO PAPER “Remix”/公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンスル東京)

その他実績多数

寄稿

- 2020年12月21日 公開: [「2020年: コロナ禍の3月から12月」Voices～みんなの声座～](#)(ネットTAM)
- 2020年11月30日 公開: [「連載 | 東北からの便り2020年リレー日記」ART SUPPORT TOHOKU-TOKYO 2011→2021](#)(公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンスル東京)
- 2019年6月29日 発行: [『憑依のバンコク オレンジブック』](#)(白水社)
- 2013年6月26日 公開: [震災に背中を押されて始まったこと ON-PAM\(舞台製作者オープンネットワーク\)の立ち上げと大分県別府での活動](#)(ネットTAM)
- 2011年12月15日 発行: [『viewpoint セゾン文化財団ニュースレター 第57号』](#)(公共財団法人セゾン文化財団)
- 2011年4月9日 発行: [『これからのアートマネジメント “ソーシャル・シェア、への道』](#)(フィルムアート社)

メディア掲載

- 2024年1月24日 公開: [EPADパートナーインタビュー: THEATRE for ALL](#)(

EPAD)

- 2021年8月11日 公開:[新規ビジネスの“表現・人脈・ネットワーク作り”の拠点「PUNTO PRECOG」\(GENSEN\)](#)
- 2021年6月22日 公開:[大人にも子どもにも効く「哲学対話」ってなに？](#)
(Fasu)
- 2021年6月15日 公開:[バリアを取り除き、誰もがアートを楽しみ、作れる未来を。THEATRE for ALLが目指す属性を超えて出会える場づくり](#)(日本財団ジャーナル)
- 2021年5月24日 公開:[プレゼンターインタビュー With コロナの視点 中村茜\(プロデューサー\)インタビュー](#)(国際交流基金)
- 2021年4月13日 公開:[THEATRE for ALLは、いかに生まれたのか？ | 特集「Backstage of THEATRE for ALL」](#)(THEATRE for ALL公式サイト)
- 2021年4月5日 発行・公開:[バリアフリーと多言語の新しいオンライン型劇場『ワンクリックで未知の世界が開幕!』](#)(AERA)
- 2021年3月31日 公開:[オンラインで実現した家庭とアートとの新たな繋がり「芸術に触れる場所を日常に」](#)(リセマム)
- 2020年6月26日 公開:[ACCカルチュラル・カンバセーションズ ～シリーズ:ニューノーマルにおけるアートを考える～ 第一回:コロナ禍と演劇 岩城京子 × 中村 茜 × 山本卓卓](#)(ACC YouTube)
- 2020年6月17日 公開:[#008 病院、学校、離島に海外...ネット演劇の可能性 / 中村茜](#)(MOTION GALLERY CROSSING)
- 2020年6月10日 公開:[#007 舞台美術が届かない?!波乱のニューヨーク公演 / 中村茜](#)(MOTION GALLERY CROSSING)
- 2020年3月27日 発行:[『国際演劇年鑑2020』〈座談会〉境界を越える舞台をめざして～平成30年間の国際交流を振り返る / 佐藤まいみ、宮城 聰、中村茜\(司会:伊達なつめ\)](#)(公益社団法人 国際演劇協会日本センター)
- 2021年3月13日 配信:[THEATRE for ALL LAB大報告会](#)(THEATRE for ALL)
- 2019年10月8日 公開:[『プラータナー:憑依のポートレート』から考える、西洋文化に忖度しないアティチュード](#)(Bound Baw)

- 2019年11月18日 公開:[動員すればそれで良い？芸術の消費に対する『プラータナー』の挑戦](#) (CINRA.NET)
- 2019年7月5日 公開:[ジャーナラン・パンタチャート—— バンコク同時代演劇界で最もアクティブで重要な演劇人のひとり](#) (国際交流基金アジアセンター)
- 2019年6月5日 公開:[新しい演劇体験の挑戦、はじめます —— 劇場を「わからないを楽しむ場」にする4時間の実験](#) (precog公式note)
- 2016年6月27日 公開:[自分の感性を疑うな。未経験で世界とアーティストを繋げた中村茜](#) (CINRA.NET)
- 2013年3月 発行: Unruhe bewahren (German review)
- 2012年8月16日 公開:[金森香×中村茜「ドリフターズ・サマースクールの魅力とは？」](#) (ドリフターズ・サマースクール公式サイト)
- 2012年8月22日 公開:[アートフェスティバル『KAFE 9』特集～vol.1](#) (中九州・横浜情報サイト・パワナビ)
- 2010年2月 発行: デザイナーたちが腕を振るう演劇、コンテンポラリーダンスの世界 precogデザイン (+Designing)
- 2008年10月 発行: プリコグについて聞いてみた 中村茜インタビュー (Quick Japan)
- 2008年8月 発行: 舞台を選ぶ新しい指標 プロデューサーの視点 precog 中村茜インタビュー (シアターガイド)



precog

プリコグ

株式会社precog(英語表記:precog co.,LTD.)

〒152-0022 東京都目黒区柿の木坂1-24-15

TEL:03-6825-1223

FAX:03-6421-2744

URL:<https://precog-jp.net/>

Email:info@precog-jp.net